

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 21 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520241

研究課題名(和文) 源氏物語の本文関係資料の整理とデータ化及び新提言に向けての再検討

研究課題名(英文) Reexamination of the Text of The Tale of Genji for Classification, Digitalization and Proposals

研究代表者

豊島 秀範 (TOYOSHIMA, Hidenori)

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：90133272

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：『源氏物語』には、大きく青表紙本と河内本の二系統の本文が存在する。だが市販されている『源氏物語』の本文は藤原定家の手を経た青表紙本系統が殆どである。一方の河内本の本文の実態が十分に理解されていないことに原因がある。そこで、未公開の河内本の本文を翻刻し、別本を含めた三系統の重要な十数本の伝本を、6巻に渡り、巻ごとに比較可能な対校一覧を作成して公開してきた。平成19年度から22年度までの基盤研究Aでの4年間を含めると、巻数は10巻を越える。併せて、時期が来ればそれらをウェブ上で公開するためのデータベース化の作業も進めてきている。

研究成果の概要(英文)：Texts of The Tale of Genji are roughly divided into two branches: Aobyoshi-bon and Kawachi-bon. Most published versions belong to Aobyoshi-bon, which dates back to a manuscript written by Fujiwara No Teika, whereas Kawachi-bon has not been fully studied yet. We have been transcribing texts of Kawachi-bon written in old Japanese letters into the ones in modern letters; we have compiled texts of six volumes of The Tale of Genji, which we have transcribed, so that we can compare the expressions of more than ten manuscripts in each volume. Including the four volumes we had compiled in our project called Scientific Research (A) from Heisei 19 to 22, we have already completed ten volumes, and we also have been building up database of them, which we will put on our website in the near future.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：源氏物語 河内本 平瀬家本 七毫源氏 岩国市吉川家本 青表紙本 別本

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 『源氏物語』の本文に関わる全体的な研究は池田亀鑑の『校異源氏物語』(昭和17年)および『源氏物語大成』(昭和28年)をもってほぼ止まった状態にある。両書に収められた伝本は昭和13年までに発見されたもので、それ以後の70年間は空白のままである。その空白を埋めるべく平成19年度~22年度まで基盤研究Aによる共同研究を進めてきた。

(2) 昭和13年以降にも『源氏物語』の新たな本文は発見され続けている。併せて、池田亀鑑が最善本として『源氏物語大成』の底本とした大島本に対する本文上の疑念が研究者によって指摘され始めている。

(3) 『源氏物語』本文の再検討が進まなかったのは、青表紙本・河内本・別本の主な伝本の比較が容易な、巻ごとの本文対校一覧がデータ化されていないからであり、その完成を急ぐ必要である。それが、基盤研究Aを引き継いだ理由である。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、源氏物語の本文関係資料の収集と、その再検討と研究支援体制のさらなる確立を目指すことにある。

(2) 本文関係資料の再検討には、従来の本文に加えて、新たな写本の翻刻が必要である。さらには、新たに翻刻した本文を加えた本文対校一覧を、巻ごとに作成して、本文の比較を可能とするデータベース化が求められる。

(3) 連携研究者および若手研究者、さらには海外の研究者をも含めた共同研究会を開催して、各々のテーマに基づく研究発表と質疑応答を通して、各研究を深めていくことで、新提言へと向かうことを目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 翻刻により本文への関心を深める  
多くの若手研究者が、新たな本文の翻刻作業を進めることで、従来のテキストとは異なる本文の存在を知り、関心を深め、研究発表へとつなげていく。

(2) 共同研究会の開催  
連携研究者および大学院生を中心とする若手研究者を交えた共同研究会を通して、研究支援体制の拡大と定着をめざす。

(3) 研究報告書の作成  
年度ごとに研究報告書を作成し、その年度の共同研究会で発表した研究成果を掲載して多くの研究者に送付することで、研究に関心と意見を寄せてもらうことで、さらに研究を深めていく。

## 4. 研究成果

(1) 研究の主な成果  
年ごとに研究成果を共同研究会で発表し『報告書』に掲載し、多くの研究者に送付して意見を求めてきた。

(2) 3年間で「桐壺」「帚木」「空蝉」「夕顔」「蓬生」「関屋」の六巻について、翻刻と本

文の対校一覧を作成して『報告書』に掲載し、併せて、そのデータベース化を行なった。これらは、前年までの「基盤研究A」での研究成果を継承するもので、10数本の主要本文の対校一覧と、そのデータ化が、『源氏物語』54巻のうち、10巻が完成したことになる。

## (3) 今後の展望

平成26年度から3年間「基盤研究C」の継続が認められ、過去7年間の研究成果をさらに広げていくことが可能となった。本研究と並行して『狭衣物語全註釈』の刊行も進めているが、本文に関する研究は地味で、忍耐と継続が求められる。しかし、それを完成することで、本文研究は大きく飛躍できるはずである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計44件)

豊島秀範「翻刻資料『源氏物語』「空蝉」「夕顔」本文対校一覧」共著、基盤研究C報告書、豊島秀範編『源氏物語本文のデータ化と新提言』(研究代表者・豊島秀範)査読無、2014、pp.1-256、

田坂憲二「神宮文庫本『紫明抄』について」、科研報告書 豊島秀範編『源氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、2014、pp.106-115、

田坂憲二「字形表示型データベースの提案 大島本『源氏物語』から」、国文学研究資料館 今西裕一郎編『日本古典籍における【表記情報学】の基盤構築に関する研究』、査読無、2014、pp.79-90、

田坂憲二「内閣文庫蔵三冊本(内丙本)『紫明抄』追考 手習巻を中心に」、日向一雅編『源氏物語注釈史の世界』、査読無、青簡社、2014、pp.95-116、

田坂憲二「表記情報から見る書写者の意識 京都大学本『紫明抄』二本から」、国文学研究資料館 今西裕一郎編『日本古典籍における【表記情報学】の基盤構築に関する研究』、査読無、2014、pp.13-25、

伊藤鉄也「『和泉式部日記』の本文異同」、今西裕一郎編『日本古典籍における【表記情報学】の基盤構築に関する研究』、査読無、2014、pp.33-59、

伊藤鉄也「『和泉式部日記』の文字表記」、今西裕一郎編『日本古典籍における【表記情報学】の基盤構築に関する研究』、査読無、2014、pp.93-99、

伊藤鉄也「『源氏積』桐壺巻に抄出された本文の性格」、日向一雅編『源氏物語注釈史の世界』、査読無、青簡社、2014、pp.40-70、

上野英子「『源氏物語聞書 覚勝院抄』における「三説」をめぐる考察」、実践女子大学芸芸資料研究所編『年報』33号、査読無、2014、pp.250-277、

上野英子「三条西家本源氏物語(二種)に

おける漢字表記に関する考察」、今西裕一郎編『基盤研究A報告書『日本古典籍における【表記情報学】の基盤構築に関する研究』、査読無、2014、pp.61 - 78、

上野英子「『源氏物語聞書 覚勝院抄』の基底 元亀2年時における聞書注と物語本文に関する分析」、豊島秀範編『基盤研究C報告書『源氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、2014、pp.94 - 105、

上野英子「『覚勝院抄』にみる三条西実澄の源氏学 「三垂説」の分析を中心に」、日向一雅編『源氏物語注釈史の世界』、査読無、青簡社、2014、pp. 213 - 231、

上原作和「方法としての池田亀鑑 『校異源氏物語』の成立と桃園文庫」、科研費報告書 豊島秀範編『源氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、2014、pp.17 - 33、

渋谷栄一「明融臨模本「源氏物語」親本の性格について 本文一筆の本文訂正跡を中心にして」、科研費報告書 豊島秀範編『源氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、2014、pp.72 - 93、

渋谷栄一「河内本「源氏物語」の巻頭目録と書入注記をめぐって 河内方注釈書の生成と読みのありよう」、日向一雅編『源氏物語注釈史の世界』、査読無、青簡社、2014、pp.117 - 141、

豊島秀範「天皇と和歌 後鳥羽院の四季の和歌を中心に」、『國學院雑誌』第114巻第8号、査読有、2013、pp. 1 - 16、

豊島秀範「アメリカ議会図書館本『源氏物語』本文の実態 「桐壺」巻を中心に」、國學院大學大学院発行『平安文学研究』第4号、査読無、2013、pp. 1 - 19、

豊島秀範「物語を支える儀礼文化 寺社詣でと花宴」、儀礼文化学会発行『儀礼文化学会紀要』第1号(通巻第44号)、査読無、2013、pp.177 - 194、

豊島秀範「『源氏物語』「平瀬家本」本文の特徴 「蓬生」巻を中心に」、基盤研究C報告書 豊島秀範編『源氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、2013、265 - 281、

豊島秀範「『源氏物語』松風・総角の本文 蓬左文庫蔵の鎌倉期写本」、國學院大學王朝文学研究会発行『志能風草』復刊創刊号、査読無、2013、pp.283 - 294、

④ 豊島秀範「翻刻資料『源氏物語』「帚木」本文対校一覧」、基盤研究C報告書 豊島秀範編『源氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、2013、pp. 1 - 200、

⑤ 田坂憲二「図書検索システムの問題点」、慶應義塾大学『藝文研究』104号、査読無、2013、pp.169 - 184、

⑥ 田坂憲二「対校資料としての京都大学図書館本『紫明抄』」、豊島秀範編『源氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、2013、pp. 17 - 31、

⑦ 田坂憲二「表記情報から見た内閣文庫本系『紫明抄』」、国文学研究資料館 今西裕一郎編『日本古典籍における【表記情報学】の基

盤構築に関する研究』、2013、pp.50 - 60、  
⑧ 伊藤鉄也「ハーバード大学本『源氏物語』の改行意識」、豊島秀範編『源氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、2013、pp.90 - 95、

⑨ 伊藤鉄也「揖夜神社所蔵・養法院様御筆『伊勢物語』」、王朝文学研究会発行『志能風草』復刊創刊号、査読無、2013、pp.221 - 232、

⑩ 上原作和「『源氏物語』の琴学史 子相伝の回路」、国士館大学国文学会発行『国文学論叢』34輯、査読無、2013、pp. 1 - 21、

⑪ 渋谷栄一「明融臨模本「浮舟」帖の親本の性格について 一面行数と和歌の書写様式及び定家仮名遣いを中心にして」、『高千穂論叢』第47巻第3号、査読無、2013、pp. 1 - 24、

⑫ 渋谷栄一「明融臨模本「橋姫」帖の親本の性格について 一面行数の和歌の書写様式及び用字表記法・訂正方法を中心にして」、『高千穂論叢』第47巻第2号、査読無、2013、pp. 1 - 18、

⑬ 渋谷栄一「明融臨模本「桐壺」「帚木」「若菜上」「若菜下」帖の親本の性格について 定家親筆と非定家筆との相違及び非定家筆本の差異性を中心にして」、豊島秀範編『源氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、2013、pp.60 - 88、

⑭ 豊島秀範「『吉川家本』(毛利家伝来本・大内家伝来本)と「平瀬家本」の本文の特徴 「蓬生」「閑屋」を中心に」、基盤研究C報告書 豊島秀範編『源氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、2012、pp.305 - 314、

⑮ 豊島秀範「翻刻資料『源氏物語』「桐壺」「閑屋」「蓬生」本文対校表」、基盤研究C報告書 豊島秀範編『源氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、2012、pp. 1 - 301、

⑯ 田坂憲二「『紫明抄』校異の試み」、基盤研究C報告書 豊島秀範編『源氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、2012、pp.69 - 80、

⑰ 伊藤鉄也「書写により変移する本文『源氏物語』を写本で読む」、国文学研究資料館編『古典籍研究ガイドンス 王朝文学を読むために』、査読有、風間書院、2012、pp.130 - 142、

⑱ 伊藤鉄也「池田亀鑑の生涯 鳥取時代素描」、鳥取県立図書館編『郷土出身文学者シリーズ8 池田亀鑑』査読無、2012、pp.30 - 46、

⑲ 伊藤鉄也「鎌倉期写本における行頭と行末表記 国文研本「柏木」「夢浮橋」の場合」、今西裕一郎編『日本古典籍における【表記情報学】の基盤構築に関する研究』1、査読無、2012、pp.31 - 35、

⑳ 上原作和「東海大学桃園文庫蔵吉見正頼旧蔵本「浮舟」巻別註と木下宗連」、基盤研究C報告書 豊島秀範編『源氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、2012、pp.46 - 59、

㉑ 上原作和「ふたつの『源氏の物語』 対立

項としての 喩 と「刈り込み」の第三項」  
物語研究会編『「記憶」の創生 物語 1971  
2011』、査読有、翰林書房、2012、pp.190  
- 203、

③⑨上原作和「東海大学桃園文庫蔵吉見正頼旧  
蔵本「浮舟」巻調査報告」、豊島秀範編『源  
氏物語本文のデータ化と新提言』、査読無、  
2012、pp.32 - 45、

④⑩渋谷栄一「明融臨模本「花宴」帖の親本の  
性質について 一面行数と和歌の書写様式  
及び用字表記法を中心にして」、豊島秀範  
編『源氏物語本文のデータ化と新提言』、  
査読無、2012、pp.17 - 31、

④⑪田坂憲二「『校異源氏物語』成立前後のこ  
と」、伊藤鉄也編『もっと知りたい池田亀鑑  
と「源氏物語」』第1集、査読無、新典社、  
2011、pp.144 - 175、

④⑫上原作和「覚醒としての 楽 『うつほ  
物語』の「胡笳の調べ」、あるいは「幸福の  
護符」の物語」、査読無、『解釈と鑑賞』、至  
文堂、2011、pp.99 - 106、

④⑬上原作和「『校異源氏物語』の時代 桃園  
文庫の人物群像」、伊藤鉄也編『もっと知り  
たい池田亀鑑と「源氏物語」』第1集、査読  
無、新典社、2011、pp.250 - 254、

④⑭上原作和「清少納言の末裔 「こまがさう  
し」の読者圏」、『枕草子 創造と新生』、査  
読無、翰林書房、2011、pp.179 - 193、

〔学会発表〕(計21件)

豊島秀範「河内本の本文の特徴 「桐壺」  
「空蝉」を中心に」、第3回 源氏物語の本  
文資料に関する共同研究会(基盤研究C)  
於國學院大學、2013.12.24、

渋谷栄一「明融臨模本「源氏物語」の親本  
の性格について 本文一筆訂正跡を中心と  
して」、第3回 源氏物語の本文資料に関  
する共同研究会(基盤研究C)於國學院大學、  
2013.12.24、

田坂憲二「神宮文庫本『紫明抄』について、  
第3回 源氏物語の本文資料に関する共同研  
究会(基盤研究C)於國學院大學、2013.12.24、

上野英子「覚勝院抄の本文と註釈」、第3  
回 源氏物語の本文資料に関する共同研究会  
(基盤研究C)於國學院大學、2013.12.24、

中村一夫「仮名文テキストの文字遣 語と  
表記の関係性」、第3回 源氏物語の本文資料  
に関する共同研究会(基盤研究C)於國學院  
大學、2013.12.24、

上原作和「方法としての池田亀鑑 『校異  
源氏物語』の成立と桃園文庫」、第3回 源  
氏物語の本文資料に関する共同研究会(基盤  
研究C)於國學院大學、2013.12.24、

豊島秀範「くらしの民俗 青森県津軽地  
域を中心に」、儀礼文化学会2月例会、於儀  
礼文化学会研修室、2013.2.10、

豊島秀範「「瀬家本」本文の特質 蓬生巻  
を中心に」、第2回 源氏物語の本文資料  
に関する共同研究会(基盤研究C)於國學

院大學、2012.12.15、

渋谷栄一「明融臨模本「若菜上・下」帖の  
親本の性格について」、第2回 源氏物語の本  
文資料に関する共同研究会(基盤研究C)於  
國學院大學、2012.12.15、

田坂憲二「京都大学図書館本『紫明抄』に  
ついて、第2回 源氏物語の本文資料に関  
する共同研究会(基盤研究C)於國學院大學、  
2012.12.15、

上野英子「覚勝院抄源氏物語の諸本分類に  
ついて」、第2回 源氏物語の本文資料に関  
する共同研究会(基盤研究C)於國學院大學、  
2012.12.15、

中村一夫「孤立する本文 早蕨巻における  
」、第2回 源氏物語の本文資料に関する共  
同研究会(基盤研究C)於國學院大學、  
2012.12.15、

上原作和「吉見正頼旧蔵本「浮舟」巻別註  
と木下宗蓮」、第2回 源氏物語の本文資料に  
関する共同研究会(基盤研究C)於國學院大  
學、2012.12.15、

菅原郁子「『源氏物語』正徹本の本文系統  
(二) 大内家・毛利家・吉川家の文事との  
関わり」、第2回 源氏物語の本文資料に関  
する共同研究会(基盤研究C)於國學院大學、  
2012.12.15、

豊島秀範「「吉川家本」本文の特徴 毛利  
家伝来本(河内本)・大内家伝来本(青表紙  
本)と「平瀬本」との本文の関わり」、第  
1回 源氏物語の本文資料に関する共同研  
究会(基盤研究C)、於國學院大學、  
2011.12.24、

渋谷栄一「藤原定家筆「源氏物語」(四半  
本系明融臨模本8帖)の本文資料の再検討」、  
第1回 源氏物語の本文資料に関する共同研  
究会(基盤研究C)於國學院大學、2011.12.24、

田坂憲二「『紫明抄』校異の試み」、第1回  
源氏物語の本文資料に関する共同研究会(基  
盤研究C)於國學院大學、2011.12.24、

上野英子「青表紙本の行方 『仙源抄』所  
引の青表紙本文に関する分析」、第1回 源  
氏物語の本文資料に関する共同研究会(基盤  
研究C)於國學院大學、2011.12.24、

中村一夫「早蕨巻の語彙」、第1回 源氏物  
語の本文資料に関する共同研究会(基盤研究  
C)於國學院大學、2011.12.24、

上原作和「東海大学桃園文庫蔵吉見正頼旧  
蔵本「浮舟」巻調査報告」、第1回 源氏物  
語の本文資料に関する共同研究会(基盤研究  
C)於國學院大學、2011.12.24、

②⑮豊島秀範「物語を支える儀礼文化」、儀礼  
文化学会9月セミナー、於儀礼文化学会研  
修室、2011.9.18、

〔図書〕(計16件)

豊島秀範『源氏物語本文のデータ化と新提  
言』、編著、査読無、基盤研究C研究報  
告書、371頁(研究代表:豊島秀範)2014.3、

伊藤鉄也『日本古典文学翻訳事典 1・英  
語改訂編』、査読無、319頁、国文学研究資

料館発行、2014.3、

伊藤鉄也『八 ード大学美術館蔵『源氏物語』「須磨」』、査読無、185 頁、新典社、2013.10、

伊藤鉄也『もっと知りたい 池田亀鑑と『源氏物語』』第2集、査読無、368 頁、新典社、2013.7、

豊島秀範『源氏物語本文のデータ化と新提言』、編著、基盤研究C研究報告書、査読無、385 頁（研究代表：豊島秀範）2013.3、

豊島秀範『米国議会図書館本『源氏物語』翻字本文 匂宮～夢浮橋』、編著、国立国語研究所編『海外に移出した仮名写本の緊急調査（第2期）』、査読有、303 頁 2013.3、

豊島秀範『狭衣物語全註釈』・巻3下、編著、査読有、509 頁、おうふう、2013.2、

上原作和『かくや姫と和歌の世界 一冊で読む竹取物語訳注付』、共編著、査読無、200 頁、武蔵野書院、2012.10、

上原作和『浜松中納言物語 巻一 註釈』、共編著、査読有、浜松中納言物語の会発行、206 頁、2012.5、

上原作和『新訂版 紫式部と和歌の世界 一冊で読む紫式部家集訳注付』、共編著、査読無、320 頁、武蔵野書院、2012.4、

豊島秀範『源氏物語本文のデータ化と新提言』、編著、査読無、基盤研究C研究報告書、395 頁（研究代表：豊島秀範）2012.3、

豊島秀範『狭衣物語全註釈』・巻3中、編著、査読有、420 頁、おうふう、2012.2、

上原作和『光源氏物語傳來史 幻の伝本の謎を探る』、査読無、316 頁、武蔵野書院、2011.11、

上原作和『マンガで分かる源氏物語』2、共編著、査読無、272 頁、池田書店、2011.11、

伊藤鉄也『もっと知りたい 池田亀鑑と『源氏物語』』第1集、査読無、288 頁、新典社、2011.5、

上原作和『紫式部と和歌の世界 一冊で読む紫式部家集訳注付』、査読無、320 頁、武蔵野書院、2011.5、

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www2.kokugakuin.ac.jp/projectg/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

豊島 秀範 (TOYOSHIMA, Hidenori)

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：9 0 1 3 3 2 7 2

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

伊藤 鉄也 (ITO, Tetsuya)

国文学研究資料館・大学共同利用機関等の部局等・教授

研究者番号：1 0 2 3 2 4 5 6

渋谷 栄一 (SHIBUYA, Eiichi)

高千穂大学・商学部・教授

研究者番号：8 0 1 6 2 6 5 0

田坂 憲二 (TASAKA, Kenji)

群馬県立女子大学・文学部・教授

研究者番号：7 0 1 3 6 4 0 6

中村 一夫 (NAKAMURA, Kazuo)

国土館大学・文学部・准教授

研究者番号：5 0 4 0 7 1 9 4

上野 英子 (UENO, Eiko)

実践女子大学・文学部・教授

研究者番号：6 0 2 0 5 5 7 3

上原 作和 (UEHARA, Sakukazu)

明星大学・人文学部・教授

研究者番号：0 0 5 8 1 0 5 0